



中獅子

大獅子

雌獅子

時代は令和へ 伝承される芸能「松石ささら獅子舞」



スマホでQRコードを読み込むと、ささら獅子舞の一部が動画でご覧いただけます。

# 松石ささら獅子舞

市指定文化財(無形民俗文化財)  
(Sasara Shishimai of Matsuishi)

「間近で見る「郷土芸能」」  
10月27日(日)午後2時から、西公民館で「郷土芸能大会」が開催されます。松石ささら獅子舞保存会、高須賀大杉ばやし保存会による、歴史ある伝統芸能を、間近で見られる良い機会です。ご覧になってみてはいかがでしょうか？



村回りの道中、辻固めや家々の座敷に上がり込み無病息災や、家内安全などを祈願します。  
※令和元年7月14日(日)に実施。

ささら獅子舞の由来は、江戸時代中期に、経済的な不況から抜け出すための神頼みとして神社に奉納されたのが始まりであると言われています。また、豊臣、徳川といった武将が自分の勢力を拡大し兵力を集めるためにこの地を訪れ、地盤が確保された御礼としてささら獅子舞を伝授していったとも言われています。  
松石ささら獅子舞は、行司を先に立て、天狗・獅子・中獅子・雌獅子・ヒョットコ・小方灯・露払いの棒術で構成され、天下泰平、家内安全、五穀豊穡、悪疫退散、無病息災などを祈願しています。毎年7月15日に近い日曜日に行われています。

昭和26年、私がまだ小学生だったころ、おじいさん(吉田徳次郎氏)とお父さん(吉田國一氏)が獅子舞で舞っていたのを覚えていました。  
私も40年以上獅子舞を舞っていますが、舞いは笛との調和が大切で、獅子は笛に合わせて舞い、笛は獅子を見ながら強弱をつけるように吹きます。  
松石のささら獅子舞は、香取神社を起点として村回りをしますが、道中、獅子舞が家々の座敷に上がり込みます。これは、そのお宅の無病息災や家内安全などを祈ります。また村境で行う辻固めは、ほかの村から自分の村に悪いものが入ってこないように舞いを行います。  
伝承については、12人ほどいた笛吹きは、現在2人です。笛吹きが多ければ音を補い合えますが、現在録音したものを流しながら、なんとか笛を吹いている状態です。  
伝承方法についても、楽譜がないので笛の音を聞きながら吹き、吹いた音を確かめながら覚えていくしかないのです。  
理想を言えば、松石地区の子どもたちに笛を吹いてもらいたいと思いますが、ささら獅子舞を残していくために、一緒に笛を吹きたいという人がいれば、迎え入れたいと考えています。



吉田 清さん

松石ささら獅子舞保存会会長  
(昭和52年7月設立)  
松石ささら獅子舞について、お伺いしました。



「宿」で疲れを癒す

村回りの途中には「宿」と呼ばれる休憩所があり、地元の人たちが「飲んでいきなさい! 食べていきなさい!」とやさしく迎え入れてくれます。そこには、笑顔や笑い声があふれ、村回りの疲れを癒してくれます。  
移り行く時代のなかで、歴史ある郷土芸能を守り伝えていく人たちの姿が、松石地区にありました。



小島 靖之さん

笛の担当は、おじいさんの笛の音を聞いて、教わりながら吹けるようになったという小島さんと、行幸小学校郷土芸能クラブ出身でもある正能さんのお二人。  
「一曲吹き終えるころには、結構疲れています。」と話す小島さんは、「笛を吹けるようになるのは難しい。でも吹きたいという人がいれば、教えていきたい。」と話してくれました。



正能 美香さん



人から人へ、  
伝統芸能の今